



☆☆☆ 学びの羅針盤 ☆☆☆

# Learning Compass

きたえ ふれあう 富沢っ子

子どもたちを笑顔で迎え 笑顔にさせ  
保護者・地域に帰します！



◇教育目標：夢をもち 未来を拓く子ども

◇重点目標：人・社会・未来とつながるWell-being2022 ～学び合う・教え合う・認め合う・助け合う・励まし合う子どもの育成～

## 「世の乱れは、言葉の乱れである」～言語能力の確実な育成～

校長 大野 昌広

道は国の方針にしたがい、3月13日以降、屋内外を問わずマスク着用を個人の判断に委ねると決めました。また、4月1日以降は学校活動全般で着用を求めないことになりました。「新しい生活様式」のもとでの約3年間の教育活動。いま、それが大きな曲がり角に立たされています。混乱のないように、引き続き感染対策と学びを両立させながら学校運営を進めてまいります。

さて、新型コロナウイルス感染症が全世界に猛威を振るいはじめた頃から聞き慣れないカタカナ語がテレビ・新聞等で飛び交いました。「クラスター（患者間の関連が認められた集団、集団感染）」「パンデミック（感染症の世界的流行）」「アウトブレイク（医療機関や高齢者施設において通常発生の頻度を超えて発生すること）」「フェーズ（局面、段階）」「ソーシャルディスタンス（社会的距離、身体的距離）」「ロックダウン（都市封鎖）」……。今となっては馴染みとなった言葉ばかり。当時、私は新型コロナウイルス感染症で重症化しやすいといわれる高齢者にこそ伝えなければならぬ情報が、逆にカタカナの専門用語で伝わりにくくなっている気がしてなりません。

### □先人も嘆く「言葉の乱れ」

日本三大随筆といわれる「徒然草」（ほかは清少納言の「枕草子」、鴨長明の「方丈記」）。作者は兼好法師。その第二十二段に「なに事も、古き世のみぞ慕はしき。今様は無下にいやしくこそなりゆくめれ」という一文があります。現代語訳にすると「何事も、昔はよかった。今は下品になるばかりだ」という嘆きの文になります。兼好法師は何を嘆いているのか？ 実は、当時の人々の「言葉の乱れ」についてだそうです。言葉の乱れは兼好法師の生きた鎌倉時代にもあったようです。今号のタイトル「世の乱れは、言葉の乱れである」は、江戸時代前期の儒学者・軍学者である山鹿 素行（やまが そこう）の言葉。いつの時代も世の中には言葉の乱れがあり、それを嘆かわしく思う人がいた、ということがわかります。

毎年実施され、秋頃に前年の結果が発表される文化庁「国語に関する世論調査」。「現在の社会状況の変化に伴う日本人の国語に関する意識や理解の現状について調査し、国語施策の立案に資するとともに、国民の国語に関する興味・関心を喚起する」ことを目的に行われています。今回の調査の中のひとつに「なにげに・ぶっちゃけ」等が気になるか、という設問があり、「なにげなくそうした」ということを、「なにげにそうした」と表現することについて、「気にならない」という回答が64.3%。平成8年度では、この「なにげに」という言葉を使うことがあるという回答が8.8%だったのに対し、令和3年度は、47.1%に増加。時代の変化とともに、本来の意味とは異なる捉え方・使い方に変わりつつあるようです。ただ、一方で、言葉や言葉の使い方について84.6%が「社会全般に課題がある」と回答しています。この回答された方々に、具体的にどのような課題があると思いますか？ と質問した結果が下記の通り（上位5位まで転載）。

- ① 59.5% 改まった場で、ふさわしい言葉遣いができていないことが多い
- ② 55.3% インターネットでの炎上のように、中傷や感情的な発言が集中
- ③ 45.1% 流行語や言葉の使い方の移り変わりが早すぎる
- ④ 43.2% 敬語の乱れ
- ⑤ 42.3% 外来語・外国語などが使われ過ぎている

### □新学習指導要領の「主な教育内容の改善事項」

新しい学習指導要領のもとでの教育活動が本格実施されて3年。「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した新学習指導要領の主な教育内容の改善事項のうち、一番最初に掲げられているのが、「言語能力の確実な育成」です。

- ◎ 発達段階に応じた、語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど情報を正確に理解し適切に表現する力の育成（国語）
- ◎ 学習の基盤としての各教科等における言語活動（実験レポートの作成、立場や根拠を明確にして議論することなど）の充実（総則、各教科等）

グローバル化やICT等の急激な進展等を鑑みたとき、語彙を豊かにし、情報を正しく理解し、理由や根拠を明確にし、自分の考えを他者に伝えることの重要性は、世の中が乱れるようなことがあったとしても、これからの時代を生きる子どもたちに確実に身につけさせなければならない学校の使命だと考えます。

今年度も残り1ヶ月。本校児童の健やか成長のため、保護者や地域の皆様の声に耳を傾け、教育活動の改善・充実に図って参ります。

保護者・地域の皆様におかれては、子どもたちに励ましと賞賛・承認の声を届けていただきたいと思います。我が子の成長は、他の子どもたちの成長に大きく依存していることを互いに確かめ合い、いつもいつまでも、学校の、子どもたちの、最高の応援団でいただけるよう心からお願いします。

## クロカン記録会

2月17日(金)クロカン記録会が行われました。各自でコースの選択や目標タイムの設定を行い、去年の記録、前回の練習の記録よりも長い距離を走ることや、タイムを縮められることを目標に練習を重ねてきました。

「途中で苦しかったけど、ゴールが見えたらうれしくなった」「去年よりも苦しくならないで走りきることができた」「来年は〇〇さんを目標に頑張りたい」



走り切った子どもたちは、みんな、満足そうな表情を見せていました。

全校で活動することによって、先輩の活躍を目標に下級生たちが育ちます。今回の行事も富沢の良い伝統が受け継がれました。

## 全校 そりあそび

2月16日(木)体育館下の坂を使って、そり滑り大会を行いました。児童会の活動のひとつです。

児童会の役員からの競技説明がわかりやすく、滑る順番を工夫するなど、安全に全校で楽しむことができました。



体重のかけ方やそりの乗り方を工夫して、誰が遠くまで滑ることができるか、全校で競い合いました。

笑顔あふれる行事となりました。

## 児童会選挙

2月15日(水)令和5年度前期の児童会役員選挙が行われました。

今回の選挙は2年生にも投票権があり、事前の選挙活動から参加しました。

当日欠席した候補者の演説は事前に録画し、体育館で放映しました。



選ぶ側も選ばれる側も真剣です。来年の児童会も期待できます。

## 冬の野山

低学年は2月21日(火)中高学年は2月22日(水)「冬の野山」の活動を行いました。

富沢の自然を探索する「季節の野山」。冬はクロスカントリースキーを履いての活動です。

冬は雪が音を吸収するので鳥の鳴き声がよく聞こえます。雪面に残る動物たちの足跡も楽しみの一つです。

木や石に降り積もった雪が風に吹かれたり、太陽があたったりして自然が作る形の美しさにもうっとり。

恵まれた学習環境に感謝。



## 3月の予定

- 2日(木) 全校集会
- 10日(金) お別れ会
- 18日(土) 第121回 卒業証書授与式
- 20日(月) 振替休業
- 21日(火) 春分の日
- 24日(金) 修了式 離任式

### 【教育委員会からのお知らせ】

(仮称)旭川市いじめ防止条例骨子案に対する意見提出手続の実施について

旭川市では、いじめ防止に係る本市の基本理念を明らかにし、いじめから子どもの生命と尊厳を守るための施策を推進することを目的とした、「(仮称)旭川市いじめ防止条例」の制定を検討しています。

つきましては、「(仮称)旭川市いじめ防止条例骨子案」を作成しましたので、同条例骨子案に対する保護者の皆様の御意見、御提言をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

○資料の配布場所

教育委員会教育指導課(6条通8丁目セントラル旭川ビル5階)、市政情報コーナー(総合庁舎1階)、各支所・公民館、旭川市ホームページ

○資料の配布・意見の提出期間  
令和5年2月18日(土)から  
令和5年3月19日(日)まで

